

豚精巢上体精子の利用

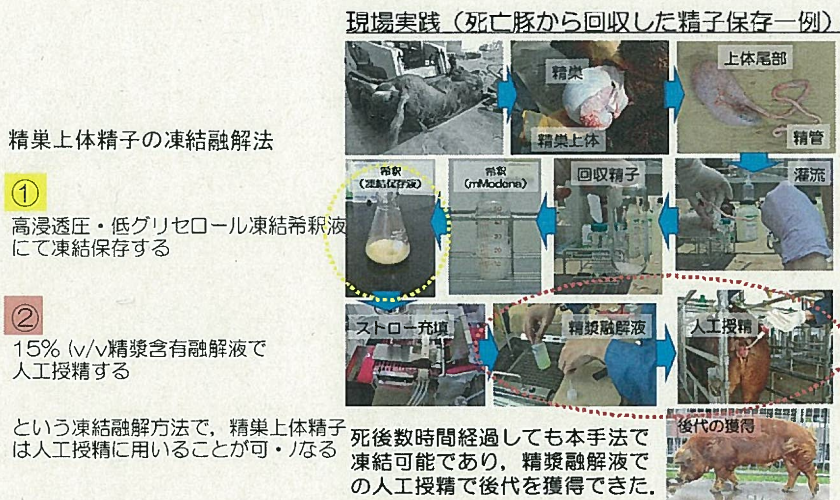
畜産研究部

1. 研究の背景

本県では、国内外から優秀な遺伝資源を導入し、タイプ別系統の育種を行っている。これには多数の雄個体と遺伝資源、および飼養スペースが必要となる。精巢上体精子は6ヶ月齢の若齢豚、死亡した雄豚からも回収できる優れた遺伝資源であり、小規模の農場でも大規模農場の育種スピードと同じ能力を発揮できる。そこで、この資源を凍結保存し、有効に利用（人工授精）できる技術を開発する。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

・精子凍結保存液と精漿を含有した融解液を精巢上体精子に応用



精巢上体凍結精子を精漿含有融解液にて人工授精して誕生した子豚

3. 期待される効果

- ・貴重な雄個体の突然死でも後代を獲得できる。
- ・小規模農場でも飼育スペースを考慮せずに、雄個体の遺伝資源を多数保管でき、大規模農場と同程度の育種改良が可能になる（ブリーダー）。

4. 担当機関連絡先

畜産研究部 豚・鶏チーム

TEL : 0974-22-0673

住所 : 豊後大野市三重町赤嶺2328-8